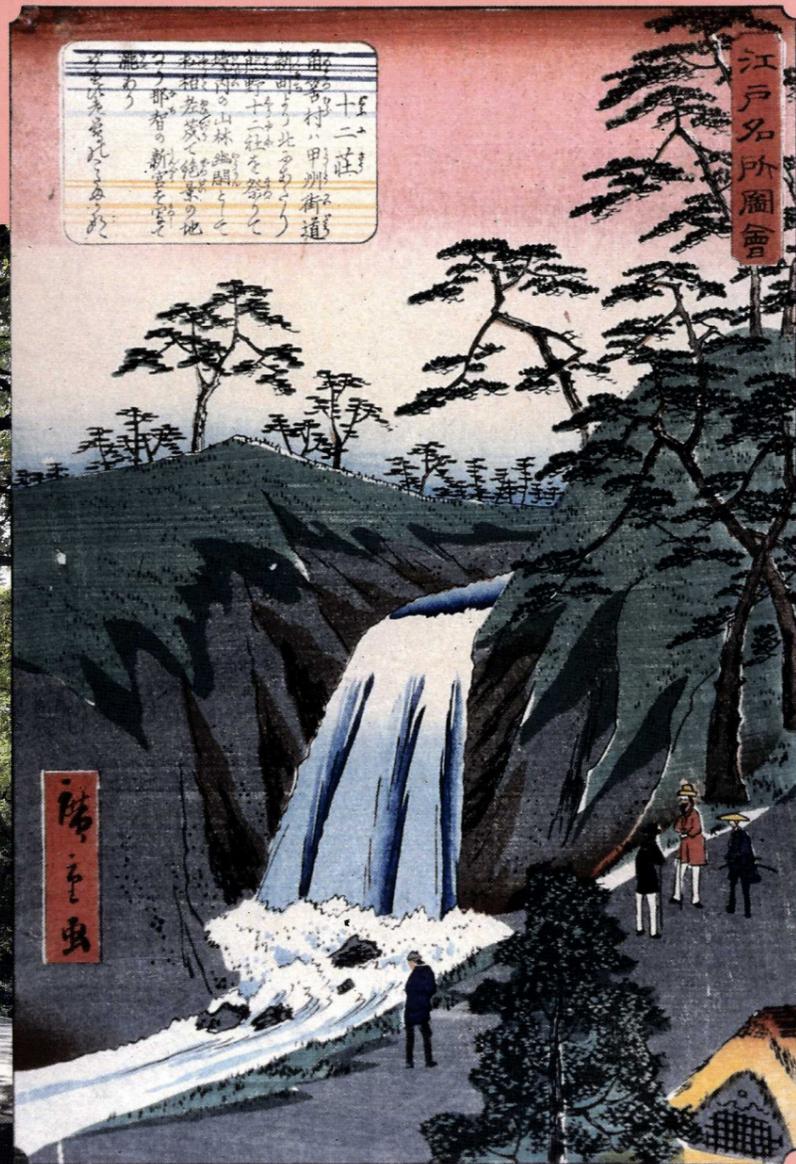


わいわい地域交流!

東京の中心、都庁のとなり、都会のオアシス
私たち地域住民のコミュニケーションをここから発信しよう!!

わが町の変遷

今



江戸名所図會 十二荘 1862年
(新宿区歴史博物館所蔵)

昔

地区協・あれこれ



地域交流分科会

「秋を探そう中央公園！」2013年11月22日(金)

今年も新宿中央公園で開催されました。公園内の散策や評判のきのこ汁と防災食をお楽しみいただいたり、ミニコンサートに聞きほれ、小枝や落ち葉で小物作りを楽しんでいただきました。



工作コーナー



ミニコンサート風景



小学生の散策・大冒険



防災食体験コーナー



生活環境分科会

新年明けましておめでとうございます。

生活環境分科会では、地域の皆様の生活環境の向上を目指して、これからも研究努力を重ねていきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

”生活環境”という名前から何を思い浮かぶであろう、何をしたらよいのだろうかと言うところから、地域の皆様に過ごしやすい、活気ある場を提供できないか、それならば、カフェをやってみようという考えにたどり着きました。当初、単独開催も視野に先に開催されているカフェを見学させていただいたり、ご意見などをお伺いして何とかいけるのではないかと、とりあえずやってみようという協議を重ねて参りました。

運営を話し合う中、社会福祉協議会地区部会さまや西新宿シニア館さまの協力を得られることとなり、より強固な布陣で初日を迎える運びとなり、初回予想人数を上回る盛況となりましたことを心より御礼申し上げます。

”つのはず友遊カフェ”は地域の皆様とともに過ごやすく、来てよかった、来て元気がでた、といってもらえるよう努力、改善、継続していきたいと思っております。毎月第三水曜日 西新宿シニア活動館 1階 13:30～開催しております。

生活環境分科会リーダー 鮎沢繁利



表看板表示 入口看板



室内談話風景



編集後記

「幸せの光とどけよ こぞことし(去年今年)」

明けましておめでとうございます。本年も当分科会は、地域交流のために活動してまいりますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

それにしても酷暑に耐えた翌年は、厳寒の冬を迎えるようです。寒さが激しければ感冒の大流行が予測され、安静・十分な水分・栄養食など、自発的な保健活動を心掛けましょう。而(しこう)して春遠からじ。「てふてふ ひらひら いらかを越えた」(山頭火)

地域交流分科会 井上 詠子

「わいわい地域交流!」の紙面作りにご意見・ご感想のある方、情報を掲載したい方、紙面作りに参加したい方、大歓迎! ご連絡をお待ちしております。次回も地域に密着した話題をお届けいたします。次回の発行は2014年4月の予定です。

【連絡先・発行元】

角筈地区協議会「地域交流分科会」事務局(角筈特別出張所内)
TEL: 03-3377-4381 FAX: 03-5350-2868 E-MAIL: tsunohazu@city.shinjuku.lg.jp
HP: http://www.city.shinjuku.lg.jp/soshiki/262200tunohazu_01.html
西新宿地域情報紙 わいわい地域交流! 第31号 発行日: 2014年 1月1日

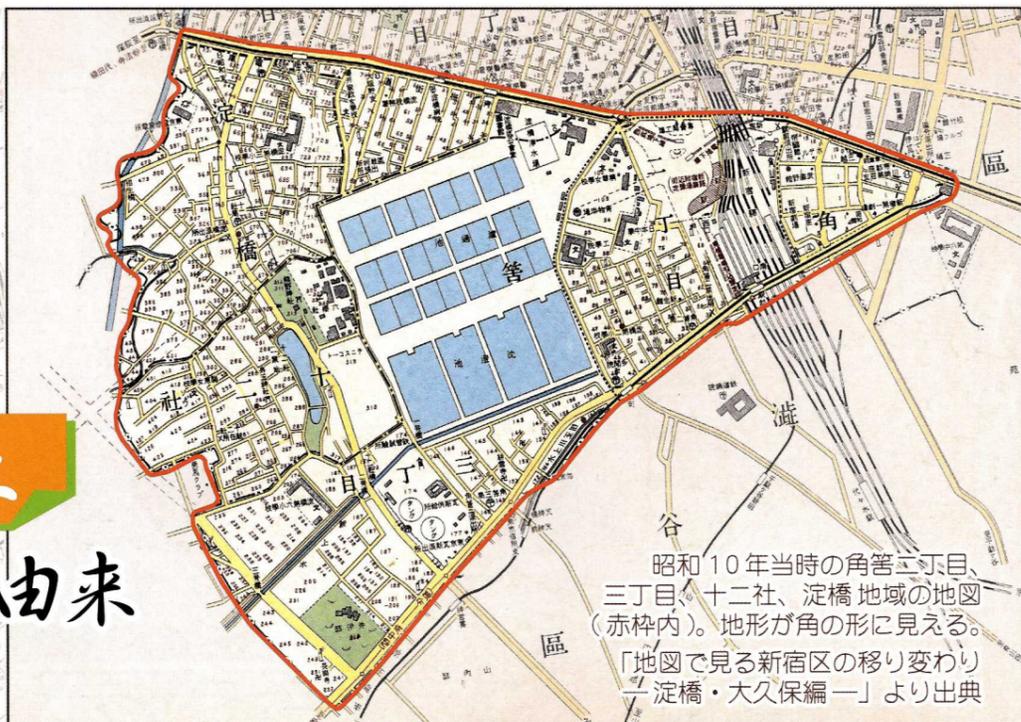


角筈

淀橋

十二社

の歴史と由来



昭和10年当時の角筈三丁目、三丁目、十二社、淀橋地域の地図(赤枠内)。地形が角の形に見える。「地図で見る新宿区の移り変わり―淀橋・大久保編―」より出典

地名の由来「淀橋」

淀橋 (よどばし) とは

淀橋は新宿区と中野区の境の神田川に架かる青梅街道上の橋の名称。江戸時代の角筈村の一部。

1889年5月1日町村制施行により角筈村、柏木村は淀橋町として誕生、大字角筈字淀橋となる。

1932年東京市の拡張により淀橋町、大久保町、戸塚町、落合町と合併して淀橋区が発足。

1947年四谷区・牛込区と合併して新宿区となる。新宿区淀橋として地名が存続。

1970年新宿区淀橋の名称が住居表示の変更により消滅、西新宿2、4、5、6丁目の各一部となる。

名称の由来

1. 青梅街道の神田上水に架かる橋名に因む町名、橋名については諸説あり。三代将軍家光が鷹狩り途中にこの地に立ち寄り、中野長者の「姿見ずの橋」とか「いとまぎの橋」を聞き、あまりに暗い話なのでこれを山城国(大阪府)淀川に似ていることから「淀橋」とした。

2. 豊島郡と多摩郡境界にあり、両群の余戸を移住させて出来た村なのでここに架かる橋を「余戸橋」と呼ぶようになり、さらに「淀橋」となった。

3. 柏木、中野、角筈、本郷の4つの村(4戸)の境にあるため「四戸橋」となり、これが「淀橋」に変化した。

町会住民にインタビュー

淀橋町会副会長石井稔さん(85歳)にお話を伺った。



今でも淀橋と名が残っている場所としては、地名に由来する「淀橋」という名の橋と「淀橋児童公園」「淀橋幼稚園」、少し離れた北新宿には今も「淀橋第四小学校」がある。また「ヨドバシカメラ」もこの地を発祥とするものである。町会の「淀橋会館」は現在再開発のため建て直しており、4年後には元の場所に戻ってくることになっている。淀橋の地はかつて「妙法寺(杉並区堀ノ内にある日蓮宗の本山)詣り」が盛んだった頃に参拝途中の町として栄えており、現在西新宿5丁目にある庚申堂も道中の安全を祈る道祖神として、また妙法寺への道しるべとして作られたものである。戦後、小西六(現コニカミノルタ)社員が多く住み商店街として栄えていたが、移転に伴い人口も減少し、商店も少なくなってしまった。現在再開発が進められており、さらに変化を遂げるであろう町である。



淀橋幼稚園は1954年開園。以来木造園舎で子どもたちを見守ってきましたが、2014年春には60年の歴史に幕を下ろします

現存する地名の一つ、青梅街道の神田川に架かる「淀橋」。川沿いの遊歩道には淀橋の由来と江戸名所図会の「淀橋水車」を紹介した看板がある



角筈



角筈出張所等区民施設外観。出張所や図書館、ホールがあります



JR新宿駅の西側(思い出横丁)と東側(アルタ前)を結ぶ小さなガード。新宿大ガードより150mほど南側にあります

地名の由来「角筈」

角筈は、江戸時代以前から存在する村落名であり、地名の由来には諸説ある。村の地形が突出していて、矢の弓にかける部分の矢筈の形をしているから名付いたとか、旧玉川上水の水門から起こったとするもので、水門が開かないような楔(くさび)がありそれを角筈といったとか、また、熊野から神仏の分身分霊をほかの地に移して祀ることを許された正蓮が神道家の言葉である角筈を名乗ったため。また、この地の開拓名主である渡辺与兵衛氏の髪の手ね方が異様な形で、ちょうど角のようであったから角髪と言われ、その後「髪」は「筈」に改め村名になった。また、渡辺氏が自宅にこもって修行を重ねる在俗の僧を意味する「優婆塞(うばそく)」で伊勢神宮の忌詞では角筈と称され、そのため与兵衛氏は角筈と呼ばれた。この説が有力とされている。また、氏は熊野神社の北側に居を構え、神社の創建者とも伝えられている。以上のような説があるが詳細は不明である。

現在の西新宿一丁目から六丁目、歌舞伎町一丁目、新宿三丁目の大部分はかつての角筈村である。

十二社



十二社にあった弁天池のボート遊びの様子(大正末~昭和初頭『新宿区の民俗』より出典)

地名の由来「十二社」

十二社は西新宿四丁目の旧名で、その由来は熊野神社に十二の神々が祀られていたところから名づけられた。神社は室町時代の応永年間(600年程前)に中野一帯を開拓した紀州熊野出身の鈴木九郎という人が郷土の熊野権現を移して迎えたのが起源とされている。紀州権現は本宮・新宮・那智の三所権現のほか、四所の明神、五所の王子があり、十二所権現といわれた。熊野神社は一社の中に十二の社を一緒に祀った相殿で、社を「そう」と読ませたことから、熊野神社一帯を十二社というようになったとされている。北側には「熊野の滝」があり、西側の十二社池とともに安藤広重の「名所江戸百景」にも描かれている。現在はバス停名の「十二社池の上」「十二社池の下」と「十二社通り」などが往時をしのばせるのみとなった。

十二社は(淀橋区)江戸時代の角筈村で、昭和7年十二社と字三丁目裏を併せて十二社となる。十二社は新宿区成立後昭和45年、神社の南側、角筈三丁目、西、北、南部と合併して西新宿四丁目に改称した。

十二社は昭和7年から昭和45年まで町名が使われ、そば処福助一帯は花街で賑わった。現在は一軒のお茶屋も残っていない。



そば処福助の入り口に残る樹齢およそ300年の銀杏の樹



西新宿4-38 新宿区立角筈公園



甲州街道に架かる歩道橋には角筈の地名が



都バスや小田急バス、新宿WEバスも停まる「角筈二丁目」バス停



角筈橋は西新宿二丁目と三丁目の間に架かる跨道橋



十二社はバス停名と十二社通り、歩道橋に残っています